

JAAF  
MIE

# 三重陸協会報

第 6 号

一般財団法人  
三重陸上競技協会

事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町 510 (三重交通Gスポーツの杜伊勢 内) TEL・FAX 0596-22-8890 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

## ごあいさつ

三重陸上競技協会 会長 豊田利一



学生、中学生、高校生、大学生の各世代で日本一を輩出し、次に続く世代も育ってきています。

トランプ大統領が就任し、世界が大きく変化し動き出そうとする中、2017年が始まりました。三重県に目を向けますと、1年後に迫ったインターハイに向けて大きく動き出さなくてはならない時がやってきました。10月には会場となる三重交通Gスポーツの杜伊勢・三重県営陸上競技場も完成する予定です。ここで行われるインターハイから全日中、国体へと続くビッグイベントで満足のいく結果を残すため、新組織一丸となって取り組んでいってほしいと思います。

競技運営では、補助競技場での開催という厳しい条件にもかかわらず、整然とした競技運営を行い、好記録も多数誕生しました。これは、ひとえにアスリートファーストに徹してきた、三重陸協の競技運営の賜物であるといえます。さらに磨きをかけ、インターハイ、全日中、国体で三重陸協の力を全国に示していただきたいと思います。最後にありますが、今回の役員改選をもちまして会長職を退任することとなりました。在任中は、皆様のお力添えの下、三重陸協の発展に向けて活動することができました。ありがとうございました。今後は、田村新会長の下、三重陸協の更なる発展と選手の活躍を楽しみにさせていただきますながら応援させていただきます。皆様の活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

## 全国高校総体・全中・三重国体に向けて

三重陸上競技協会 専務理事 松澤 一一一



いものと確信しています。

2017年も明けて早もう2月です。昨年は、リオオリンピックに本県出身者を含め4名の選手が出場しました。とりわけ、地元の大大会である市町駅伝デビューした高見澤選手がリオデジャネイロオリンピックに駒を進めたことは特筆すべきことと思います。選手の皆さんには、これまで色々紆余折があったことでしょうか、本県のような小さな県から4名の選手が出場したことは、全国的に見ても類を見ないことと思います。これは、これまでの三重陸協の取り組みが間違っていなかったことの結果であり、故村島論明前会長がこれまで言ってきました、発育発達に応じた選手強化の取り組みが成果をあげたものと思えます。これから将来に向けても、本県の指導理念は変わらない

場の完成・引き渡しは10月上旬頃に予定されています。オープニングの大会は、小学生大会となります。大会に先立って、野口みずき氏及び鈴木英敬三重県知事参加のオープニングセレモニーが行われる計画となっています。新しい競技場で、新しい機器を使つての大会運営は色々大変だとは思いますが、審判員みんなの協力によって、大会をスムーズに運営して頂けることをお願いいたします。

全国大会になると、戸惑う場面があるかもしれませんが、お互いにディスカッションを経て、研修を深めてください。インターハイ・全中・三重国体に向けて、三重陸協としても選手強化を着実に取り組んで成果を残しつつあります。国体の選手強化については県外選手の勧誘にも鋭意取り組んでおり、今しばらく時間は必要ですが、三重国体に結果を残せるような選手を本県に勧誘していきます。県外選手の協力も必要ですが、地元選手の発掘・強化は今以上の努力が必要です。顧問の方々、中学・高校生の強化はもとより、卒業生の大学生の強化にも取り組みをお願いします。各校1名の選手強化をして頂ければ、強化委員会も強い協力を得るものとなります。是非、ご協力の程お願いします。長々と申ししてきましたが、指導者一人一人の努力が三重国体を成功に導いてくれます。三重国体、陸上競技は50年国体と同じように、皆さんの力と熱意で総合優勝しようではありませんか。

# 各地区陸協報告

## 桑員陸協

1月に開催された都道府県男子駅伝において桑名市出身の塩澤稀夕選手が1区で区間賞をとるなど高校生の活躍が目立ち平成29年は良いスタートとなった。

平成28年度を振り返りますと、桑員陸上競技協会としても、多くの選手を全国大会に輩出していきたいところであるが、各年代層において選手強化が課題であり、そうしたなかでも陸上競技を知らない顧問の先生方が各校で一生懸命に取り組んでいただいている。しかしなかなか強化に結びつかないのが現状である。

少しでも陸上競技の未経験の教員の指導力向上の為に合同練習会をおこない、選手はもちろん指導者の育成もおこなった。この取り組みも毎年継続して実施する事が重要だと感じている。

また、普及の目的で実施したフェスティバルが定着し、今年度は地元企業であるNTNの選手を招いて陸上クリニックを開催し日本トップレベルの選手から直接指導を受け、また話を聞かせてもらえたことは小、中高校生の選手にとって非常に良い経験になったと思う。自分達と同じ場所で練習をしている選手と接する事は選手の新たな目標にもなり良い機会だと考える。保護者も楽しめる機会

として飲食物の販売などさまざまなお店の協力により盛大にでき、選手も保護者も陸上競技を楽しむ機会ができた事はとても好評であった。またこのことにより地元

の選手を応援するという気持ちが生えた事は非常に良かったと考える。今後三重国体、三重インターハイ開催において更なる強化をおこない、また少子化のなか1人でも多く陸上競技者を増やす為に、さまざまな手法を使い陸上競技人口の増加を目指していきたいと思

## 三泗陸協

1月に開催した三泗小学生タスキリレー大会を最後に本年度の競技会をすべて無事終了いたしました。ソフト面では、小学生から高校生までそれぞれの校種において多くの生徒が三重県代表として全国大会に出場し健闘してくれました。特に、冬の全国中学駅伝競走大会においては、三重県代表として男女とも三泗地区の中学生が県大会を勝ち上がって出場してくれました(男子：川越中学、女子：菰野中学)。その中で川越中学が

全国大会において見事8位入賞を果たしました。また、暁中学と四日市高校からは男女各1名の選手が都道府県対抗駅伝のメンバーに選出されて活躍しました。他にも県の代表メンバーの中には三泗地

区内の中学や高校出身の選手が数名含まれ(西陵中学、四日市商業高校)、本年度は長距離種目においての活躍が目立ちました。ハー

下面においては、一昨年度完成したナイター設備のおかげで、中央緑地陸上競技場において夜間においても多くの人が学校や会社勤めの帰りに練習等に取り組んでいきます。来年度もナイター設備を利用した長距離記録会を2回実施する予定です。また、現在2種公認競技場としての設備充実を目的として、砂場の増設や障害用ハードルの交換を進めています。フィールド内の電源設備の工事も完了しパソコンや光波測定器の利用も可能となりました。

三泗地区の中学校において約半数の学校に陸上競技部がない現状をふまえ、今までもいくつかのクラブチームが、学校でクラブをしっかりとできない生徒たちを対象に熱心な活動を行ってきたおかげで一定の成果をあげてきてくれました。まだまだ課題は山積していますが、生徒たちが少しでも陸上

競技に打ち込めるよう創意工夫を重ねながら、普及の面においても取り組んでいきたい所存です。小学校の普及については、クラブチームには所属していない子どもたちを対象に「走る・跳ぶ・投げる」の楽しさを体感してもらうことを目的に、本年度も昨年の10月に講習会を実施しました。中学校教員の指導者を中心に小学生の指導にあたりました。

四日市中央緑地公園において

は、全国高校総体・国体の開催に合わせて体育館の建て替えやサッカー場の増設が計画されていますが、今年の冬から工事が始まりま

した。それに合わせて念願のサブトラックの建設も行われる予定です。四日市市においても充実した陸上競技の取り組みや競技会の運営が可能になるよう、今後も市との連携を密にして実現に向け取り組んでいく所存です。ただ、本年度はこれらの工事のために競技会のさいにウォーミングアップ等で使用していた多目的広場が使用不可となります。競技者の皆さんにはご不便をおかけすることになります。工夫をこらしながら円滑な競技運営ができるように努めたいと存じます。

## 鈴鹿陸協

2016年度も市内外から多くの選手が競技会に参加いただき、審判員として大会運営に携わったり、指導者として各年代の選手の育成にご尽力いただき、ありがとうございました。

さて、昨年8月にリオデジャネイロで開催された第31回オリンピック競技大会には鈴鹿市出身の石川末廣選手(天栄中学↓稲生高校)、衛藤昂選手(白子中↓鈴鹿高専)の2名が出場しました。特に衛藤選手は大学院卒業後に再び鈴鹿に戻りAGFで仕事をしながら鈴鹿市内で練習し、日本のトップ選手として一昨年の世界選手権に続き、2年連続の日本代表です。鈴鹿市内に練習拠点を置いても努

力次第で日本のトップになれるという事は、市内のアスリート達にとっても大変よいお手本になってくれたと思います。

衛藤選手は、オリンピックから帰後に休む間もなく国体に出場し、2年連続の優勝で三重県チームに貢献してくれました。同じくAGF所属の田中智則選手も日本選手権に引き続き国体でも7位入賞と検討してくれました。AGF鈴鹿株式会社様には選手の確保だけでなく、小学生大会地区予選時に参加者全員にTシャツのご提供、通信大会では東海大会に進んだ中学生選手全員にTシャツ、顧問にはポロシャツをご提供いただき選手共々チーム鈴鹿として大変モチベーションを上げることが出来ました。

高校生では神戸中学校から鈴鹿高専へ進学した中脇裕也選手が全国高校総体で1000mに出場し、7位に入賞しました。秋の岩手国体でも1000mと4x1000mRに出場し、三重県チームのアンカーとして4位入賞と活躍しました。中学時代に腰椎分離症で全く走れなかった時期を我慢し、その後の努力で全国大会に入賞したことを賞賛したいと思います。また、全国高校駅伝では伊賀白鳳高校に進学した山田大翔(神戸中学出身)と野田啓太(創徳中学校出身)がそれぞれ2区、5区を走り5位入賞に貢献しました。これらの活躍も現場の指導者をはじめ関係団体のお力添えのたまものと深く感謝

いたしております。

普及活動としては、昨年に続き一ノ宮小学校でキッズアスリート陸上教室を三重陸協協力の元で開催させていただくことが出来ました。県内トップ選手達が見せるデモンストレーションに子供達は一喜一憂し、大きな盛り上がりを見せ大成功裏に終えることができました。

残念なことは63年間続いた鈴鹿市内駅伝大会が交通情勢の変化のため、今大会を持って最後となりました。これまで無事故で運営できたことに対し、ご協力いただいた鈴鹿警察署、鈴鹿消防署、毎日新聞社様に御礼と共に感謝状を贈呈させていただきました。

今年10月からAGF鈴鹿陸上競技場は更新のため改修工事に入ります。翌年以降に迎えるインターハイ、全国中学選手権、国体、東京オリンピックに向けて新しくなった競技場で、地域の方からの支援を支えに普及と強化を盛り上げていきたい所存です。

## 亀山陸協

2017年も1月8日の第25回「かめやま江戸の道シテイマラソン大会」で始まりました。今年「衛藤昂」選手(AGF鈴鹿(株))、招待選手には市内出身で活躍されている鈴鹿工専の「金崎舜」選手と駒澤大学の「下史典」選手をお迎えし、955名の参加者は旧東海道の歴史街道を爽快に駆け抜けました。会場内では憧れのオ



リンピック選手や招待選手のメッセージに子どもたちは夢をふくらませ、観客も興奮し大会はおおいに盛り上がりました。更にサブライズで今年も市内出身の落語家、「林家菊丸」さんが駆けつけていただき、開・閉会式も楽しく行われました。今年も1.5kmのジョギング、1.5kmの小学生の部、3kmの中学生の部だけで1,116名の参加があり、健康ブームの高まりと将来が期待される小・中学生の参加が増え、うれしい限りです。より多くの皆様が参加され市民スポーツ推進の一つとしてシティマラソンを更に発展させていきたいと考えています。

昨年の競技会でも、小中学生の陸上クラブ「JAC亀山」及びその出身者や市内の高校、中学の選手が県内の大会で優勝や上位入賞、また全国大会でも大活躍してくれました。本人の頑張りはもちろんですが、児童、生徒の健全育成も含め熱心に指導に当たられている指導者や先生方のご尽力に頭が下がります。

また、「美し国三重市町対抗駅伝」は昨年入賞を逃しましたが小学生から成人までの連帯感も強まる中、今年も再び入賞目指して出場しました。

小規模の協会ですがシティマラソン大会の他に市内小学生の陸上競技会、スポーツ少年団体の駅伝大会、亀山市駅伝大会等を開催しています。2月12日に開催した亀山市駅伝大会は今年で第63回となり歴史ある大会です。史上最高35

チームの参加があり盛大に開催できました。これらの行事も亀山高の生徒や先生方及び各団体の指導者の方々にお手伝いをいただいで運営しています。

今後平成30年の三重インターハイ、32年の東京オリンピック、33年の三重国体とビッグ大会が続いて開催されます。活躍できる選手の育成にも各団体と連携を深めて進めていきます。



**津陸協**

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポー

ツ教室等を開催しています。

平成28年度を振り返ると、日本学生個人選手権で優勝した植松直紀さん（中京大、男子ハンマー投）や全国中学校大会を制した藤本大輝さん（一身田中、男子走幅跳）をはじめ、茂山千尋さん（国士館クラブ、日本選手権女子砲丸投）、成岡大輝さん（伊賀白鳳高、全国高校総体男子競歩）、田辺佑典さん（伊賀白鳳高、全国高校総体男子3000m障害）、山本フェ

ビアスさん（宇治山田商業高、全国高校選抜大会男子3000mH）、村木亮太さん（九州共立大、日本ジュニア男子ハンマー投）、前川昂輝さん（久居高、日本ユース男子ハンマー投）、三井康平さん（西橋内中、J.O男子円盤投）、中垣内太智さん（西郊中、J.O男子B100m）が全国大会で入賞するなど、津市および津市出身の選手が活躍してくれました。

本年（29年）1月に津シティマラソンが、「東京オリンピックに向けて、津市民皆で岩出玲亜さん（ノーリツ、一志中出身）を応援していこう！」と、岩出玲亜さんをゲストランナーとしてお迎えして開催されました。まずは、世界選手権に向けて、名古屋ウイメンズマラソンでの快走を期待しています。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、28年度も鈴鹿、三泗、松阪、伊勢度会など多くの地区陸協様から暖かいご配慮をいただく中で、大会や記録会を開催させていただきました。厚くお礼申し上げます。

ます。

津市へ競技場新設の要望をさらに粘り強く継続して行い、平成30年高校総体、32年東京オリンピック・全国中学校大会、33年三重国体に向けて、小中高の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていく所存です。

**松阪多気陸協**

今年の成果については、小学生チームが充実し、全国小学生大会に出場する選手が出るなど、県内でも活躍する選手が多く輩出できたといいことがあります。特に、URCの澤井さんは800mにおいて、県小学生記録を樹立し、今後も活躍が期待されます。また、中学生においても、全国大会に多数出場し、全国中学生大会で、多気中学校の床辺さんが砲丸投で7位入賞を果たすなど活躍をしてくれました。また、中学生全体のレベルはたいへん底上げし、県大会などで、松阪地区の選手の活躍が目立った一年でした。このことは、小学校との連携の成果だと考えられ、今後の選手育成のモデルになっていくものだと考えます。そして、高校生でも松阪商業高校や相可高校を中心にたいへん活躍することができ、特に、国民体育大会など全国のレベルでの活躍が目立った一年でした。地元の高校が元氣よく活動していることで、中学校の選手たちもその気になり生き生きと活動でき、そのことが小学生の指導者のやる気を増大させているという循環がうまくいっ

**伊勢度会陸協**

ているのが、今年度、松阪地区が活躍できた大きな要因であったのではないかと思われます。松阪地区陸協は規模も小さく、少人数での運営となっていますが、今後、小中高の合同練習会などを開くと、連携を大切にした選手育成に取り組みたいと思います。

**鳥羽志摩陸協**

平成28年度も各年代で伊勢度会陸協出身・所属の選手が大活躍してくれました。昨年度の世界選手権女子5000mで見事に決勝進出を果たした尾西美咲さん（小侯中↓宇治山田商業高校出身）が今年度も日本選手権で優勝しリオ・オリンピックの代表に選ばれました。残念ながら決勝進出はならなかったものの、2020年の東京オリンピックについても言及し、まだまだ意欲は衰えていないことを感じ嬉しく思います。

平成28年度は、5月の伊勢志摩サミットの開催もあり、鳥羽志摩地区が目玉される年となりました。そのような中、第47回ジュニアオリンピックでは、文岡中学校の鴨澤君が男子共通円盤投げで2位、濱口君がA男子2000mで7位と2名の入賞者を輩出することができました。また入賞はなりませんが、C女子走り幅跳には、文岡中学校の中井さんが出場しました。全国大会入賞者の輩出は、平成24年の全中千葉大会で文岡中学校が男子400mRで全国優勝して以来の快挙であり、約10年前から、取り組んできた育成が徐々にではありますが身をつ結んできた結果ではないかと喜んでおります。

今年度は特に数多くの選手が全国大会で入賞してもらいましたが特に全国小学生交流大会で世古綾葉さん（神社小）が6年女子100mで見事に優勝を飾りました。なお、この大会では南勢陸上クラブも女子4×100mRで久々の入賞（8位）を果たしています。

また、28年度は例年実施している、合同練習会、鳥羽志摩地域の、小学校の教員の方々への審判講習会や実技講習会の開催、記録会への審判派遣に加え、地区内の小学生・幼稚園児に「走る・跳ぶ・投げる」の楽しさを感じてもらうために「出前！陸上教室！」を小学

29年度はいよいよ新しい競技場が秋に完成し、10月の県小学生大会と東海高校新人大会を実施予定ということですが、また、競技場の完成に伴い、「南勢駅伝」も競技場周回コースで実施予定です。これまで三重県営サンアリーナで行



校3校と幼稚園1園で開催する事ができました。普段、子どもたちを指導されている先生方も事前にしっかりと相談し、指導内容を組み立てていきました。29年度に向けても、すでに教校から依頼をいただいております。地域とより密接な連携をとりながら事業に取り組みたいと思います。

毎年恒例となった国府の浜での砂浜やクロスカントリーを活用した冬季合同練習会は、地区内外から過去最多の250名の選手にお越しいただきました。今年、新たに参加いただきました学校、チームもあり、昨年以上に選手たちの交流にもつながったのではないかと思います。

今後は、地区内の小学校の統廃合などにより、学校数が減少していきます。これまで鳥羽志摩地区の選手育成に携わっていただいた皆様に感謝するとともに、地域のクラブチーム・小学校と各中学校との連携を今まで以上に図り、選手の普及・育成・強化、指導者の育成を進めていきたいと思ひます。

### 伊賀陸協

平成28年度の伊賀市は、三重県陸上大会伊賀市予選会には、クラブチームを含め小学校区単位で450名余りの参加があり、県大会でもゆめが丘クラブの男子リレーの優勝をはじめ多数の入賞者を出すことができ、高校総体・国体では、白鳳高校の選手をはじめ入賞するなどあり、12月の都大路の全国高校駅伝では、伊賀白鳳高

校男子駅伝チームの選手がしっかりとたすきをつなぎ5位に入賞する活躍がありました。が、中学校ではほとんどの学校に陸上部がないため、小学校で陸上をやめてしまいう傾向にあります。

伊賀市には、伊賀白鳳・上野高校など県内でも有数の指導者・競技実績ともある指導者がいるが、学校統合等でスタッフが減少・高齢化し、大会の運営が心配されま

### 名張陸協

29年度は、役員の交代する年でもあるので新しく若い方にも役員等に加わっていただき、協会運営を充実していきたいと考えています。

名張市陸上競技協会は、発足して早50年の歴史が経過しました。これもひとえに、先代の方々の努力の賜と思っています。しかし、その中の活動を振り返ると、名張市の行事と共に楽しんできたものばかりで、選手自身の育成、発展に繋がるものはありませんでした。そこで、一人でも多くの選手を県大会、東海大会、全国大会へと送り出したいと思ひ、陸協は名張市と共に「名張クラブ」というクラブチームで動きだしました。

名張クラブも発足して7年目を迎えました。このクラブは9歳から76歳の陸上愛好者が月曜日と木曜日の夜8時から10時までナイターの下で練習をしています。このメンバーの中には、今年箱根駅

伝の5区を走った日体大の辻野恭哉選手や城西大の中舎優也選手が活躍しています。また、名張小学校5年生の永安正弥君が三重県選手権大会で優勝して全国大会に出場することができました。名張ク

ラブは、身障者の方とも練習を共にして昨年度岩手県で行われた全国身障者大会では関森崇文選手が800mで優勝、1500mで準優勝しました。記録も昨年より10秒近く更新することができて仲間として喜びを分かち合っています。21世紀の共生社会に向けての

第一歩を名張クラブは踏み出している昨今です。新しく完成する陸上競技場も縁石を取り払って、全てがバリアフリー化で工事を進めている最中です。

他の選手としてはランキング12位ではありますが4×100mリレーの生徒が3人5年生と言うことで活躍を期待しています。彼らは、名張クラブ以外にサッカーやテニスをしており、メンバーが揃うのは試合の1週間前ぐらいであり、記録よりも陸上競技に興味を持って楽しいと思ひ将来的には本格的に陸上競技に携わってほしいと思ひています。実は、箱根を走った辻野選手は、中学2年生まで棒高跳をしていました。本格的に長距離を始めたのは、中学2年生のタスキリレーからでした。

このように、成長過程にある子どもたちをたくさん種目を経験させて、本人が楽しいと思える陸上種目を選択させて指導をしていくことが陸上協会の使命だと感じ

ている昨今であります。

平成15年から市民陸上競技場の建設を陳情してやっと念願叶って4種公認全天候型トラックが完成します。

左記の写真は3月完成予定の全天候型トラックの様子です。



トラック8レーン  
ロングフィールド内  
芝生有  
人工芝  
ナイター設備  
平成33年  
三重国体は  
500台・バス大  
500台  
駐車場  
4台 (収容)

この建設に至っては三重陸上協会の専務理事長である松澤様にもご尽力いただき感謝の気持ちで関係者は喜んでいきます。この完成を機会により一層の選手の強化に努めていきたいと思ひています。

### 尾鷲陸協

尾鷲市は過疎化地域であり、かつ、少子化も進み、陸上の競技人口も徐々に減りつつあります。しかしながら、尾鷲市の中では陸上

は人気のある競技であり、多くの小学生が少年団に入団し、陸上競技を行っています。

今後、三重県で国体やインターハイが行われることもあり、尾鷲陸協としては、一人でも尾鷲市から国体やインターハイで活躍できる選手が現れるよう、選手の発掘に力を注いでいます。

特に小学生の育成に力を入れています。小学生には多くの大会に一人でも多く参加してもらえよう、また、地元地域の大会にも積極的に参加し、活発に活動するよう働きかけています。陸上の大会だけなく、スポーツに関するイベントが開催されるようであればそのイベントにも地方にも出向き

参加し、様々な経験を積ませて人間的にも成長していけるような活動を行っています。

また、陸上競技を行っている選手だけでなく、尾鷲市民が誰でも参加できるような大会を開催し、埋もれた選手発掘を行っていく方向も考えています。

尾鷲市民だけでなく、周辺地域の陸上競技者との接点を持てるよう、当陸協主催の大会に周辺地域の方々にも参加していただけるよう積極的に働きかけています。

小学から中学、中学から高校と陸上競技を継続して続けてもらえるような楽しい環境づくりが大切であると考えています。

まだまだ小さな組織ではありますが、少しずつ今できることを積み重ねて地域に貢献できるように努めていきたいと思ひます。

### 北牟婁陸協

極小規模な北牟婁陸協ですが、明るい話題がいくつもあります。

一番大きな話題としては、昨年度から活躍が期待されていた紀北中学校3年生の濱口紀子が大きく成長し、通信陸上混成大会において、四種競技で従来の県中学記録を100点近く更新する

2897点の新記録を樹立したことです。全国大会に於いて、同種目で途中で苦しい展開となったものの、最終種目で見事に逆転して5位入賞を果たすことができました。また、通信陸上三重大会での100mHの優勝や東海大会での100mHの2位入賞などが評価され、希望郷いわて国体の少年B100mYHに出場させていただきました。

二番目に大きな話題としては、潮南中学校から尾鷲高校に進学した世古智也が走幅跳で同校では久しぶりとなる全国大会出場を果たすことができました。

その他では、紀北中学校から伊賀白鳳高校に進学した九嶋大雅が、前半故障で精彩を欠いたものの後半復調し、来年度以降の活躍が期待できる状況になってきたことや潮南中学校から宇治山田商業高校を経て東海大学に進学した直江航平も順調に競技生活を送っていることなどがあげられます。

強化普及の面については、合同練習会の実施や、尾鷲高校の垣内元宏先生が指導する紀北ACの活



動、小学校への出前授業の実施等  
で対応しているところ。今後  
も、明るい話題を少しでも多く提  
供できるように頑張っていきたい  
と考えております。

### 熊野陸協

今年度、南牟婁郡紀宝町矢渕中  
学校出身の高見澤安珠が、日本選  
手権で優勝、参加標準記録を突破  
し3000SCでオリンピックに出  
場しました。この地域からオリ  
ンピック選手が出たことで、大い  
に地元が盛り上がりました。

その効果もあり、小中学生も、  
活躍しました。

小学生では、岳野迪也（木本小  
6年）が県小学生大会80mHで優  
勝、全国大会に出場し、準決勝ま  
で進出することができました。

全国小学生大会へは、熊野  
RCから、2年連続、この6年  
間で5人出場しています。

中学生では、山西勇介（飛鳥中  
3年）が、通信陸上大会100m  
で優勝、全国大会へ出場しました。  
また、通信陸上大会では庵前宥斗  
（飛鳥中3年）が110mHで2

位、走幅跳で3位、前川羅唯（飛  
鳥中3年）が砲丸投6位、大江陽  
菜（有馬中1年）が100mHで  
6位に入賞し、それぞれ東海大会  
へ出場しました。

2017年1月現在、熊野RC  
には小学生・中学生・高校生合わ  
せて70名が在籍しています。

練習は、毎週土曜日の夕方に熊  
野市営グラウンドや山崎運動公園  
で、毎週水曜日の夜には飛鳥中学

校グラウンドで行っています。ま  
た、随時、飛鳥中学校グラウンド  
でナイター自主練習も行っています。



練習に参加している部員が着実  
に力をつけて来ており、各種県大  
会でも優勝・入賞しています。

また、本年度も、外部より講師を  
招いての「陸上教室」を数回開催  
し、多くの方に参加していただき  
ました。

陸上部のある中学校・高校が少  
ないことと、指導者が少ないこと  
が課題ですが、お互いに連絡を取  
り合いながら小学生・中学生・高  
校生と継続的な指導ができるよう  
にしています。

今後も、熊野市南牟婁郡地区で  
陸上競技の輪を広げられるよう  
に、熊野陸協として「熊野RC」  
を軸に活動していきたいと考えて  
います。

## 各委員会等報告

### 競技委員会



過密日程の中、審判にご協力を  
いただきありがとうございます。  
さて審判員の皆様は、競技会の運  
営をするにあたって何を目標に審  
判をされているでしょうか？

「間違いないように」「ルールと  
照らし合わせて」「時間通りに」「選  
手が動きやすいように」「安全に」  
等々、様々な目標を持って審判を  
していただいていると思います。

かたくなに「ルール通り」とか、「時  
間通り」にだけでは競技運営がス  
ムーズに行かないのは、ご存じの  
通りです。

では、何が必要なのでしょう  
か？人が動くには「Why」「H  
ow」「What」が必要であり、  
基本の「Why」が重要と言われ  
ています。「Why」、「何故」審  
判をするのか、「何故」している  
のか。おそらく、多くの方が「陸  
上競技が好き」が出発点ではない  
でしょうか？

その「好き」という原点から競  
技を行い結果、審判に携わってい  
る方が多いと思います。

陸上好きの多くの方がいます。  
日頃は強化委員会の活動に、ご  
理解とご協力を賜り、大変ありが  
とうございます。

### 強化委員会



元々陸上好きだった我々審判員  
が、その選手らにもっと好きに  
なってもらう為に、しっかりと競技  
運営してあげることが我々の大事  
な仕事ではないかと思えます。  
そのためには、「ルールの理解・  
熟知」、「先を読む目」をアッ  
プさせていただければと思います。  
ルールブック・ハンドブックは購  
入いただかなくとも、日本陸連の  
HPからも見る事ができます。  
2017年度もよろしくお願いま  
す。

平成28年度の国民体育大会（岩  
手）はリオデジャネイロオリ  
ンピックに出場を果たした衛藤昂選  
手（AGF）の優勝を含む8種目  
に入賞、天皇杯得点は44点の24位、  
皇后杯得点は19点の33位という成  
績でした。  
都道府県対抗駅伝では京都で行  
われた女子が28位、広島で行われ  
た男子は14位でした。特に男子で  
は1区塩澤稀夕選手（伊賀白鳳高）  
が見事なラストパートで区間賞  
を獲得し、いい流れを作っていた  
ことができました。男女とも一つでも上  
の順位を目指し、一生懸命頑張っ  
ていただきました。ありがとうございます。

## 平成28年度国体・都道府県対抗駅伝報告

### 平成28年度 第71回国民体育大会（岩手国体）

10月7日（金）～11日（火）岩手県北上総合運動公園でおこなわれ、男子6種目・  
女子2種目（優勝1種目を含む）計8種目に入賞いたしました。

リオデジャネイロオリンピックに出場した衛藤昂選手（AGF）は成年男子  
走高跳で貫禄ある跳躍で見事優勝。国体2連覇を達成いたしました。成年男子  
100mに出場した諏訪達郎選手（中央大）、成年女子100mの世古和選手（クレイ  
ン）、そして成年男子800mの田中智則選手（AGF）が入賞。成年少年男子共通  
4×100mリレーでは、決勝直前の諏訪選手が負傷しましたが、代役として出場  
した東魁輝選手（NTN）の快走もあり4位入賞を果たしました。

少年種別では、少年B女子砲丸投に出場した床辺彩乃選手（多気中）が中学生  
として10年ぶりとなる6位、少年男子A5000mの塩澤稀夕選手（伊賀白鳳高）が  
自己新記録で4位、少年男子共通三段跳の河出壱貫選手（近大高専）が8位と入  
賞をはたしました。

成年選手の活躍が目立った本年度の岩手国体は、天皇杯得点44点（参加点10点  
含む）の24位、皇后杯得点19点（参加点10点含む）の33位という結果でした

### 皇后盃 第35回 都道府県対抗女子駅伝 28位 2時間23分01秒

前日からの積雪と時折前が見えないほどの吹雪にみまわれる厳しい条件での  
レースとなりました。2区高見澤安珠選手で16位まで順位を上げましたが、最終  
的には28位でゴールしました。

若松監督からは、「満足できる結果でなかったことはしっかり受け止めた。高  
校を卒業した若い選手が三重県チームに戻ってきている。可能性のあるチームな  
ので今後成長して満足できみんな喜んで残せることをめざしたい。」とい  
うコメントがありました。

### 天皇盃 第22回都道府県対抗男子駅伝 14位 2時間21分45秒

1区の塩澤稀夕選手がすばらしいラストパートで区間賞を獲得しいい流れを  
つくってくれました。その後も、中学生や高校生も流れに乗ってよく踏ん張り、  
上位集団でレースを進めることができました。最後は、予定していた社会人選手  
が走れなかったこともありましたが、昨年の順位（26位）を大きく上回る14位で  
ゴールすることができました。



昨年度に改良した強化指定選手制度を本年度も実施、高校1、2年生、中学3年生合わせて201名を選出しました。11月20日に認定

得していただき、指導に生かしていただきますよう、宜しくお願ひ致します。

化委員会との連携重視」「地区における普及活動の推進」「指導者の育成」の三点を重点目標に掲げ

式を行い、午前は種目別練習、午後は他種目へのトランスファーの可能性を探るべくコントロールテストを実施しました。また12月11日には皇学館大学の施設をお借りし、『栄養とスポーツ障害』とい

再来年に迫った三重インターハイ、その先の全日中、三重国体で結果を出すためにも選手のやる気を引き出し、指導者もまわりとの連携を深め、共存共栄を合言葉に取り組んでいただきたいと思っています。

も、鈴鹿陸協との共催事業として実施した「キッズアスリート陸上教室 in ノ宮小」では、リオデジャネイロ五輪日本代表の衛藤昂選手、伊勢市内の自治会との共同事業として開催した「キッズアスリート陸上教室 in 進修小」では、アテネオリンピック女子マラソン金メダリストの野口みずささん

うテーマのもと講習会を開催しました。選手・保護者・指導者合わせて約300名の参加となりました。特に保護者の方には約100名の参加をいただき、たくさん

かねてより日本陸連へ要望しておりました三重県のコード番号がようやく24番より国体番号の23に統一されることになりました。

「小学生大会の意義や考え方」「日常の活動状況」について意見交換をする中で、今後の方向性について意思疎通を図ることができました。

切であると改めて感じるようになりました。冬季の種目別練習においては、県外に選手と指導者が共に向うき、指導を仰ぎに行くケース。指導者を招いて実施する練習会等も行って

10月に伊勢の競技場が竣工の予定です。全国一新しい競技場として、相当数の電子機器が導入されます。これで舞台の準備が整います。地元の利で一人でも多くの全

来年度以降も「選手の可能性の広がり」を大切にし、息の長い選手育成のために努力したいと考えていますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

ました。また、昨年度から普及部と連携して開催している小学校の出前授業も3回実施しております、要請も増えてきております。今後は強化部、普及部はもちろん、地区の優秀選手や普及担当、大

来、好記録が出るように演出する予定です。「がんばれ三重」

【競技場および長距離走路の公認終了期日】

ます。それを充実させるため、日体協の公認コーチ講習会を三重県内で隔年実施しており、来年度は三重県開催となります。更に多くの方に受講してもらい、資格を取

本年度も普及委員会の活動にご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。今年度は「強

従い、公式の競技会を開催し得る、陸上競技場および長距離走

**ご協賛をいただいた企業**

- 学校法人 高田学園
- 桑名スポーツ
- 魚定
- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- 株式会社 まるかつ
- ぎゅーとら
- 八千代工業株式会社 陸上競技部
- NTN 株式会社 陸上競技部
- 株式会社デンソー 陸上競技部
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックスジャパン
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 株式会社 クレーマージャパン
- 岐阜経済大学
- 皇学館大学
- AGF 鈴鹿株式会社
- 日本体育施設
- ミズノ株式会社

(敬称略)

**日本陸上競技連盟栄章**

岩手国体期間中、2015年度高校優秀指導者章・中学優秀指導者章の表彰が行われました。

- ◇ 高校優秀指導者章 中 武 隼 一 氏
- ◇ 中学優秀指導者章 小 西 孝 明 氏

路ならびに競走路の公認検定作業を行う。

2017年3月29日

※各地区でシティマラソンの企画及び競技者が増加しています。国際大会や招待選手が走る場合、自転車計測でない公認が認められません。長距離走路の作成や、新規陸上競技場を設置する場合は技術委員会までご相談下さい。

**医事委員会**

JAAF THE

ました。また、昨年度から普及部と連携して開催している小学校の出前授業も3回実施しております、要請も増えてきております。今後は強化部、普及部はもちろん、地区の優秀選手や普及担当、大

来、好記録が出るように演出する予定です。「がんばれ三重」

従い、公式の競技会を開催し得る、陸上競技場および長距離走

ました。また、昨年度から普及部と連携して開催している小学校の出前授業も3回実施しております、要請も増えてきております。今後は強化部、普及部はもちろん、地区の優秀選手や普及担当、大

来、好記録が出るように演出する予定です。「がんばれ三重」

従い、公式の競技会を開催し得る、陸上競技場および長距離走

ました。また、昨年度から普及部と連携して開催している小学校の出前授業も3回実施しております、要請も増えてきております。今後は強化部、普及部はもちろん、地区の優秀選手や普及担当、大

来、好記録が出るように演出する予定です。「がんばれ三重」

従い、公式の競技会を開催し得る、陸上競技場および長距離走

**普及委員会**

JAAF THE

**技術委員会**

JAAF THE

ました。また、昨年度から普及部と連携して開催している小学校の出前授業も3回実施しております、要請も増えてきております。今後は強化部、普及部はもちろん、地区の優秀選手や普及担当、大

来、好記録が出るように演出する予定です。「がんばれ三重」

従い、公式の競技会を開催し得る、陸上競技場および長距離走

2018年3月30日

5年間です。

は、医事部員だけでなく、一般の方の参加も募り、コンディショニ

ング等の知識を知っていたたく活動を行ってまいりました。

そのうち、各県内大会につきましては、各選手が初めて使用する会場での開催が多くあったにも関わらず、本年度は大きな事故・怪我等も無く、各役員及び審判員の方々と共に安全で有意義な大会運営に協力でき、来年度も継続して参りたいと思います。

また、本年度は日本陸連より、例年注意喚起のある熱中症対策に加えて、選手の貧血に対して安易な薬剤の摂取についての注意喚起もあり、特に対象と思われる年代以上の指導者への通達も行いました。それ以外の年代の指導者の皆様も、貧血に関しての正しい知識を学んでいただき、安易なまたは勝利至上主義的な考えからの薬剤の使用は、後々のその選手の健康を損なうことにつながる可能性が大であることをお知りおきいただきたく思います。

来年度も今以上スタッフのスキルアップを図り、選手の方々が安全で安心して臨める大会づくりに尽力して参りたいと思います。

尚、来年度も、伊勢の競技場の改修に伴い、サブトラックでの大会開催が多く、トレーナーステーションを始めとする施設の設営・活動が難しい状況ですが、今年度の経験を活かし、今年度より多くの大会でトレーナー活動が出きるよう努力したいと思います。また、選手・指導者・審判員の皆様へホー

ムページを通し、多くの医事関係の情報共有も行いたいと思っております。

これからも、医事委員会の活動に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

### 審判委員会

2016年度の審判員数は、S級39名、A級111名、B級404名の554名です。2018年の全国高校総体、2021年の国民体育大会に向け、競技役員確保が課題です。ぜひ職場や学校の仲間を誘ってください。また、今年度も審判員の資質向上、審判配置の再考をしていきます。さらに三重県体育協会の助成事業を受け、県内審判員を全国大会に派遣しています。全国規模の大会開催に向けて、みなさまのご協力をお願いします。

### 高体連

今年度はリオデジャネイロ五輪が開催され、三重県からは4名がオリンピックの仲間入りを果たしました。4名とも三重県育ちの競技者であり、それぞれの世代でかわった方々の喜びもひとしおであったらうと思います。本人の精進もさることながらご家族をはじめとした関係者の皆さんの先見の明と情熱が4名の背中を力強く押したことは間違いありません。

今年度の高校生の活躍に目を転

じてみると、伊賀白鳳が岡山総体、岩手国体、全国高校駅伝、都道府県駅伝と年間通じて大活躍をしてくれました。町野英二先生の逝去後に入学した生徒たちの活躍に「新しい時代の幕開けだね」と話したところ、「町野先生に教えてもらったことを引き継いでいるだけです」と中武隼一先生が話してくれました。

私たちが生まれる前、生徒であった頃、指導者になってから現在に至るまで、多くの方々が三重県の陸上競技を支え、素晴らしい成果を上げてくれました。昭和48年度の三重インターハイでの7種目優勝、昭和50年の三重国体、51年の佐賀国体の二年連続の天皇盃、皇后盃獲得を筆頭に長きにわたり素晴らしい競技者を輩出するだけでなく、大会運営の力量も日本有数のレベルになっていきました。

松本彦丸先生や出口秀行先生を中心とした通告（アナウンス）は今のような効果音やトランシーバーが普及する前に、見事なタイミングでの確に大会を進行していました。声のトーンも素晴らしい。当時の通告は競技者にとっても観客にとっても心地よいものであり、間違いなく「日本一」のレベルに達していました。他の部署も作業が正確かつ迅速に行われ、競技時間が遅れることはなく、たとえ、トラブルが発生して中断を余儀なくされても、遅れた競技時間も程なく元に戻すという離れ

業をこともなげにやっつてのけました。この競技運営ができる陸協は日本中探してもそう多くはありません。これから始まるインターハイ、全日中、国体に向けて、今まで培われた先人の業績と真髄を何としても次世代に伝え、継承していくことでこれからの大会を成功に導く土台を作りたいものです。

### 中体連

長野全中において、男子走幅跳の藤本大輝さん（一身田中）が見事優勝、男子棒高跳の白井颯斗さん（玉城中）が3位、女子四種競技の伊藤桃子さん（陵成中）が3位、濱口紀子さん（紀北中）が5位、女子砲丸投の床辺彩乃さん（多氣中）が7位、女子走高跳の大門あいさん（厚生中）が8位と5種目6名の入賞を果たしました。このように多くの選手が全国で活躍できたことは、三重インターハイや三重国体に向けてとても良い刺激になったと思います。

また、男子3000m、男子円盤投、女子走高跳、女子四種競技の4種目において三重県中学新記録を樹立してくれました。全国ジュニアオリンピック大会でも2年生種目での2種目を含め、9種目の入賞を果たすことができ、次年度の活躍が期待できる選手もたくさん出てきました。県強化合宿においても活気のあふれる練習ができ、来シーズンの活躍を大いに期待できるものとなりました。そしてU16ジュニア研修合宿（東海北信越ブロック）では9県の強い選手が集まる中、選拔された40名の選手はとても刺激になり、来年度の熊本全中に向けて意識も高まったようです。クラブチームで育てていただいている選手の活躍も多くなっ

ており、中学校とクラブチームがうまく協力し合いながら、共に力を合わせて選手が意欲的に活動できることを願います。

平成32年度は、三重全中が開催されます。それに向けても今年度以上に全国の活躍、全体のレベルアップを目指します。また、三重国体に向けて指導者の育成にも力を入れ取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を発掘・育成していききたいと思っております。

### トピックス

#### 米寿を祝う会



「じいちゃん」の愛称で親しまれている三重陸協最高齢審判員（S級審判員）石田信治さんの「米寿を祝う会」が、昨年9月に多くの陸上競技関係者が参加して行われました。石田さんは、昭和3年12月5日生まれの88歳。90歳を迎える年のインターハイ、その後の全日中、国体でも元気に活躍される姿をみせていただきました。ものです。



# 三重のオリンピック

## ☆衛藤 昂選手

(鈴鹿AC↓白子中↓鈴鹿高専↓筑波大↓AGF) 走高跳に出場  
中学時代の指導者 梅崎輝久先生、山口秀人先生、谷映親先生

立てたことは嬉しくもあり誇りに思う一方、参加中も参加後も最後に辿りつくゴールだと思っていました。しかし、今は日本記録の更新、世界選手権とオリンピック入賞が目標になっています。

小学時代は鈴鹿ACの練習とスイミングスクールに週1回、中学時代も1m71で県4位で、その頃はオリンピックは自分にとって無縁のものだと思っていました。2月生まれが影響し、高専1年のときに身長が10cm伸び、記録も徐々に伸びて、大学院在学時(2014年)に世界選手権、オリンピックの参加標準記録をクリアしたのを境に、本気でオリンピックを狙い始めました。

オリンピックに参加して、アスリートとして世界最高峰の舞台に



高校時代も走高跳と110mハドルの2種目が専門でした。短い目で見ると、中学時代は大した成績を残せていませんが、逆に、いろんな種目に取り組み、また専門化していなかったことが、高校以降の伸びしろに繋がっていると思います。中学でナンバー1になれなくてもいいと思います。小学校から高校生までは、いろんな競技や種目に取り組み、動きの幅を広げることが大事だと思います。

## ☆石川 末廣選手

(天栄中↓稻生高↓東洋大↓HONDA) マラソンに出場

小学校では野球、中学時代はサッカーをやっていました。学校代表として出場した地区駅伝の走りを見た稲生高校の行方保先生に薦められて高校から陸上競技を始めました。

今回、オリンピックに参加でき

## 中学・高校の男子チーム そろって入賞

### 全国高校駅伝

伊賀白鳳 5位 2時間05分31秒

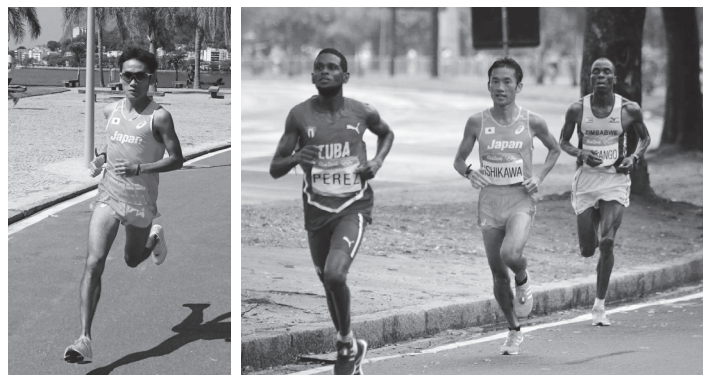
1区塩澤選手が2位といい流れを作り、2区以降も常に入賞圏内でレースを進め、見事3年ぶりの入賞を果たしました。昨年は2年生中心で28位でしたが、同じメンバーで挑み昨年の雪辱を果たしました。



### 全国中学駅伝

川越中 8位 57分57秒

2年生が成長し全員が同じような走力をつけてきて、大会前から手ごたえを感じて挑み、三重県としては2度目の入賞を果たしました。力のある2年生がいるので、今年はさらに楽しみです。



オリンピックは小さい頃から「すごい人が出るモノ」というイメージで、簡単に「出たい」と言う事の出来ない特別なモノという印象でした。

今回標準記録を切れて、初めて目標として「オリンピックに出たい」と思う事ができて、それに向けていつも以上に集中して質も高い練習をしました。

オリンピックに参加して、世界大会は何度か経験させてもらっていたので試合の雰囲気などは、他の世界大会とあまり変わらない印象でした。ただ、周りからの注目度や反応は、他の試合とは比べられないくらい大きいと感じました。

オリンピックは特別な人が出るものだと思うのに、いざ出てみると「私が出れるんなら誰でも出れるんじゃないか」と思う

たことは私の競技キャリアの中で一番の出来事でしたので、諦めずに競技を続けてよかったと思います。周りからの反響や、当日の声援も今までにないものでしたが、特別変わったことはせず、いつも通りの練習と生活をする心を心がけました。

私は36歳でオリンピックの舞台に立つことができました。諦めずに努力をすれば必ず報われます。若いアスリートの皆さんもぜひ世界と戦うといった意識をもって競技に取り組んでもらいたいと思います。日の丸つけてもう一度世界の舞台で戦い、マラソン自己ベストも更新したいと思っています。

日頃から三重県の方々には沢山の応援していただき本当に感謝しています。これからも皆様の期待に応えられるように一生懸命頑張ります。結果で恩返しします

## ☆尾西 美咲選手

(小俣中↓宇治山田商高↓積水化学) 5000mに出場

中学時代の指導者 福井清先生



ようになりました。中学・高校までは目立った成績がなくても、誰にでもチャンスはあるし可能性もあると思います。いろんな事に挑戦して、小さな事からクリアして一歩一歩夢に近づいていってほしいなと思います。

## ☆高見澤 安珠選手

(矢渕中↓津商高↓松山大) 3000mSCに出場

小学時代の指導者 榎本善広先生

小学生の時、市町駅伝に出場したことをきっかけに、中学校から陸上競技を始めました。津商業時代には、インターハイ、全国高校駅伝に出場、800mでは三重県高校記録を樹立しました。大学入学後、3000mSCを始めインカレ優勝、デカネーション日本代表、ジュニア日本記録を更新し、昨年の日本選手権では転倒しながらも闘志あふれる走りで見事優勝し、オリンピック代表となりました。

オリンピック終了後も、全日本大学女子駅伝でも区間賞を獲得しチームの優勝に貢献、都道府県駅伝でも三重県チームの一員として活躍しています。

今後は、今年の世界選手権そして2020年の東京オリンピックをめざしています。

